

2 児童の今後の見通し

児童の今後の見通しについては、里親委託児では「自立まで現在の里親家庭で養育」60.9%（前回49.2%）、「養子縁組又は里親委託」17.0%（前回28.4%）に対し、「保護者のもとへ復帰」は13.8%（前回13.9%）にすぎない。養護施設児では「自立まで現在の児童養護施設で養育」55.1%（前回56.5%）、情緒障害児では「保護者のもとへ復帰」52.4%（前回53.5%）、自立施設児では「保護者のもとへ復帰」61.0%（前回60.8%）、乳児院児では「現在の乳児院で養育」34.1%（前回35.6%）が最も高くなっている。

表15-1 児童の今後の見通し別児童数（里親委託児、養護施設児、情緒障害児、自立施設児）

	総数	保護者のもとへ復帰	親類等の家庭への引き取り	自立まで現在のまま で養育	養子縁組 又は 里親委託	現在のままでは 養育困難	その他	不詳
里親委託児	3,611 100.0%	498 13.8%	32 0.9%	2,199 60.9%	613 17.0%	49 1.4%	215 6.0%	5 0.1%
養護施設児	31,593 100.0%	11,193 35.4%	541 1.7%	17,398 55.1%	440 1.4%	380 1.2%	1,544 4.9%	97 0.3%
情緒障害児	1,104 100.0%	578 52.4%	21 1.9%	147 13.3%	11 1.0%	17 1.5%	329 29.8%	1 0.1%
自立施設児	1,995 100.0%	1,217 61.0%	38 1.9%	331 16.6%	25 1.3%	54 2.7%	326 16.3%	4 0.2%

表15-2 児童の今後の見通し別児童数（乳児院児）

	総数	保護者のもとへ 復帰	親類等の 家庭への 引き取り	現在の 乳児院で 養育	児童養護 施設へ	母子生活 支援施設 へ	養子縁組 又は里親 委託	その他	不詳
乳児院児	3,299 100.0%	840 25.5%	21 0.6%	1,126 34.1%	736 22.3%	6 0.2%	323 9.8%	243 7.4%	4 0.1%

IV 里親家庭の状況

1 里親申込みの動機

調査日（平成 20 年 2 月 1 日）現在で、現に委託されている里親家庭の総数は 2,626 世帯となっており、前回調査の 1,958 世帯より 668 世帯（34.1%）増加している。

里親申込みの動機別をみると「児童福祉への理解から」37.1%（前回 32.3%）、「子どもを育てたいから」31.4%（前回 33.6%）、「養子を得たいため」21.8%（前回 29.8%）となっている。前回調査と比較すると、「養子を得たいため」の割合が下がり、「児童福祉への理解から」の割合が上がっている。

表 16 里親申込みの動機別里親家庭数

総数	児童福祉への理解から	子どもを育てたいから	養子を得たいため	その他	不詳
2,626	974	825	572	224	31
100.0%	37.1%	31.4%	21.8%	8.5%	1.2%

2 登録期間

児童が委託されている里親家庭の登録期間は、「5年未満」が 46.5%（前回 38.8%）と最も多く、以下、登録期間が長くなるに従い減っていくが、「15年以上」も 15.8%（前回 18.5%）ある。

表 17 登録期間別里親家庭数

総数	5年未満	5～9年	10～14年	15年以上	不詳
2,626	1,222	601	381	415	7
100.0%	46.5%	22.9%	14.5%	15.8%	0.3%

3 委託児童数

委託児童数は、「1人」が 51.8%（前回 55.5%）と最も多く、「2人」の 25.0%（前回 24.3%）と合わせて里親家庭の大部分を占めており、「3人」11.1%（前回 8.8%）、「4人」5.7%（前回 5.0%）、「5人以上」5.0%（前回 5.2%）となっている。

表 18 委託児童別里親家庭数

総数	1人	2人	3人	4人	5人以上	不詳
2,626	1,360	657	292	149	130	38
100.0%	51.8%	25.0%	11.1%	5.7%	5.0%	1.4%

4 里親の年齢

里親の年齢は「50歳代」が〔里父・里母合わせて（38.5%）〕最も多く、「40歳代」が〔里父・里母合わせて（27.2%）〕これに次いでいる。

なお、前回調査と比べると「40歳代」〔里父（前回31.5%）・里母（前回39.8%）〕が減少し、「60歳以上」〔里父（前回16.1%）、里母（前回11.5%）〕が増加している。

表19 里親の年齢別里親家庭数

	総数	30歳未満	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	いない	不詳
里父	2,626	12	148	599	1,024	621	219	3
	100.0%	0.5%	5.6%	22.8%	39.0%	23.6%	8.3%	0.1%
里母	2,626	26	195	828	999	538	-	40
	100.0%	1.0%	7.4%	31.5%	38.0%	20.5%	-	1.5%

5 里親の仕事の種類

就業している里親の仕事の種類は、「専門・技術」が19.2%（前回20.5%）と最も多く、次いで「事務」が12.8%（前回13.5%）、「宗教家」10.3%（前回8.8%）となっており、「社会福祉事業従事者」7.5%（前回6.3%）、「宗教家」10.3%（前回8.8%）及び「サービス」7.8%（前回6.2%）が漸増している。

表20 仕事の種類別里親家庭数

総数	社会福祉事業従事者	宗教家	教員	専門・技術	管理	事務	販売	農林・漁業	単純労働	サービス	その他の就業	不詳
2,626	198	270	82	503	110	336	158	110	131	206	435	87
100.0%	7.5%	10.3%	3.1%	19.2%	4.2%	12.8%	6.0%	4.2%	5.0%	7.8%	16.6%	3.3%

6 里親家庭の年間所得

里親家庭の平成18年年間所得（税込）は表21のとおり、一般家庭と比較してみると、「平均所得金額」は里親家庭で632万円、一般家庭で566万8千円となっている。

表21 年間所得（税込）

	平均所得金額	回答世帯数
里親家庭	632.0万円	2,626世帯
一般家庭	566.8万円	48,023千世帯

注）一般家庭は「平成19年国民生活基礎調査」

7 里親家庭の住宅所有状況

里親家庭の住宅所有状況は、「自家・一戸建て」が75.8%（前回77.9%）と多くを占めており、次いで「自家・集合住宅」6.7%（前回6.9%）、「借家・一戸建て」6.4%（前回4.9%）、「借家・集合住宅」5.0%（前回4.5%）となっている。

表22 住宅の所有状況別里親家庭数

総数	自家		公営住宅	公社・公団住宅	給与住宅	借家		間借	その他	不明	不詳
	一戸建て	集合住宅				一戸建て	集合住宅				
2,626	1,990	175	61	14	32	168	130	5	21	3	27
100.0%	75.8%	6.7%	2.3%	0.5%	1.2%	6.4%	5.0%	0.2%	0.8%	0.1%	1.0%

V 母子生活支援施設入所世帯（母親）の状況

1 児童数

調査日（平成20年2月1日）現在における母子生活支援施設入所世帯数は4,056世帯となっており、前回調査の4,343世帯より287世帯（6.6%）減少している。

母子生活支援施設入所世帯を児童数別にみると、「1人」が55.4%（前回54.2%）と最も多く、次いで「2人」が31.2%（前回31.7%）となっている。

表23 児童数別母子生活支援施設入所世帯数

総数	1人	2人	3人	4人以上	不詳
4,056	2,246	1,264	420	120	6
100.0%	55.4%	31.2%	10.4%	3.0%	0.1%

2 入所理由及び在所期間

(1) 入所理由

母子生活支援施設への入所理由は、「配偶者からの暴力」が40.8%（前回28.4%）で最も多く、「経済的理由による」の24.6%（前回26.8%）、「住宅事情による」の15.3%（前回16.0%）がこれに次いでいる。

表24 入所理由別母子生活支援施設入所世帯数

総数	入所前の家庭内環境の不適切による	母親の心身の不安定による	職業上の理由による	住宅事情による	経済的理由による	配偶者からの暴力	その他	不詳
4,056	334	123	16	621	996	1,655	223	88
100.0%	8.2%	3.0%	0.4%	15.3%	24.6%	40.8%	5.5%	2.2%

(2) 在所期間

母子生活支援施設へ入所してからの期間は、「5年未満」が83.6%（前回80.6%）と大部分を占め、「5年未満」の中でも「1年未満」33.2%（前回31.6%）、「1年」22.2%（前回20.1%）となっている。

表25 在所期間別母子生活支援施設入所世帯数

総数	5年未満	1年未満	1年	2年	3年	4年	5～9年	10年以上	不詳
4,056	3,399	1,345	901	505	372	276	514	137	6
100.0%	83.8%	33.2%	22.2%	12.5%	9.2%	6.8%	12.7%	3.4%	0.1%

3 入所時の年齢

母子生活支援施設入所世帯の入所時の母親の年齢は、30歳代が50.7%（前回48.7%）と約半数を占め、次いで40歳代が16.9%（前回15.9%）、20歳代が29.4%（前回32.1%）となっている。

表26 入所時の年齢別母子生活支援施設入所世帯数

総数	20歳未満	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50歳以上	不明
4,056	56	388	805	1,071	984	488	199	57	8
100.0%	1.4%	9.6%	19.8%	26.4%	24.3%	12.0%	4.9%	1.4%	0.2%

4 母子世帯になった理由

母子世帯になった理由は、「離婚」が61.5%（前回66.7%）と最も多く、次いで「未婚の母」の13.1%（前回13.7%）となっている。

表27 母子世帯になった理由別母子生活支援施設入所世帯数

総数	死別			離婚	遺棄	生死不明	未婚の母	その他	不詳
	病死	交通事故死	その他						
4,056	33	5	17	2,493	265	5	533	666	39
100.0%	0.8%	0.1%	0.4%	61.5%	6.5%	0.1%	13.1%	16.4%	1.0%

5 年金等の受給状況

年金等の受給状況は母子生活支援施設入所世帯の7割以上が「児童扶養手当」76.6%（前回75.7%）を受給しており、次いで「児童手当」を受給している世帯が68.0%（前回39.1%）と多いが、「国民年金」等の各種年金は全部を合計しても3.2%（前回2.4%）と1割にも満たない。

表28 年金等の受給状況別母子生活支援施設入所世帯数

総数	受給あり（重複回答）									受給なし
	国民年金			厚生年金 船員保険	共済年金 等	児童手当	児童扶養 手当	特別児童 扶養手当	その他	
	母子年金	遺族基礎 年金	その他							
4,056	14	22	67	29	2	2,759	3,105	118	407	624
100.0%	0.3%	0.5%	1.7%	0.7%	0.0%	68.0%	76.6%	2.9%	10.0%	15.4%

6 公営住宅入居希望の有無及び現在の状況

(1) 公営住宅入居希望

公営住宅入居希望は、母子生活支援施設入所世帯の57.0%（前回56.4%）で過半数を超えている。

表29 公営住宅入居希望の有無別母子生活支援施設入所世帯数

総数	あり	なし	分からない	不詳
4,056	2,313	784	952	7
100.0%	57.0%	19.3%	23.5%	0.2%

(2) 現在の状況

現在の状況は、「適当な住居さえあれば退所できる」という者が24.0%（前回27.4%）、「1年以内に退所の見込み」という者が13.5%（前回10.0%）、「末子が18歳になるまで退所困難」という者が12.8%（前回15.9%）、「3ヶ月以内に退所の見込み」の者が10.7%（前回7.6%）となっている。

表30 現在の状況別母子生活支援施設入所世帯数

総数	3か月以内に 退所の見込み	1年以内に退 所の見込み	適当な住居さ えあれば退所 できる	末子が18歳に なるまで退所 困難	その他	不詳
4,056	433	546	973	521	1,568	15
100.0%	10.7%	13.5%	24.0%	12.8%	38.7%	0.4%

7 従業上の地位及び仕事の種類

(1) 従業上の地位

母子生活支援施設の入所世帯の母親の 74.6% (前回 75.2%) の母親は就業している。就業している母親は、「臨時・日雇・パート」が 53.5% (前回 51.1%) と最も多く、「常用勤労者」が 19.0% (前回 22.4%) とこれに次いでいる。

前回調査に比べて、「常用勤労者」が減り「臨時・日雇・パート」及び「不就業」が増えている。

表 3 1-1 従業上の地位別母子生活支援施設入所世帯数

総数	事業主	常用勤労者	臨時・日雇・パート	その他の就業	不就業	不明	不詳
4,056	11	770	2,170	76	1,007	13	9
100.0%	0.3%	19.0%	53.5%	1.9%	24.8%	0.3%	0.2%

なお、不就業の理由であるが、最も高い割合であったのは、「条件にあった求人がない」で 24.9% (前回 26.7%)、次いで、「精神的・身体的障害がある」の 23.6% (前回 16.4%)、「疾病がある、もしくは虚弱である」の 13.9% (前回 15.3%) であった。

表 3 1-2 不就業の理由別母子生活支援施設入所世帯数

総数	講習等で就業準備中	保育が確保できない	乳児がいる	条件にあった求人なし	就労習慣がない	就労意欲が乏しい	疾病・虚弱である	精神的・身体的障害がある	児童に障害・疾病がある	不詳
1,007	91	79	37	251	35	79	140	238	43	14
100.0%	9.0%	7.8%	3.7%	24.9%	3.5%	7.8%	13.9%	23.6%	4.3%	1.4%

(2) 仕事の種類

就業している母親について仕事の種類をみると、前回と順位は変わらず、「技能工・生産工程作業員及び労務作業員」が 27.3% (前回 27.4%) と最も多く、次いで「サービス業従事者」26.3% (前回 26.0%)、「事務従事者」14.6% (前回 14.5%) となっている。

表 3 2 仕事の種類別母子生活支援施設入所世帯数

総数	専門・技術	管理	事務	販売	農林・漁業	運輸・通信	技能・生産等	保安職業	サービス	その他就業者	不詳
3,049	392	8	445	292	5	38	831	13	803	191	31
100.0%	12.9%	0.3%	14.6%	9.6%	0.2%	1.2%	27.3%	0.4%	26.3%	6.3%	1.0%

注) 「不就業」を除く。

8 転職希望の有無

就業している母親のうち、転職を希望する母親は 28.1% (前回 27.2%)、転職希望のない母親は 48.6% (前回 51.4%) となっている。

表 3 3 転職希望の有無別母子生活支援施設入所世帯数

総数	あり	なし	分からない
3,049	858	1,482	681
100.0%	28.1%	48.6%	22.3%

注) 「不就業」を除く。

9 年間所得

母子生活支援施設入所世帯の平成19年の年間所得分布は、表33のとおりとなっている。「不明」を除いた分について「平均所得金額」をみると、174万5千円となっており、一般家庭の563.8万円（平成19年国民生活基礎調査の結果による）の3割程度に止まっている。

表34 年間所得別母子生活支援施設入所世帯数

数 総	100万円 未満	100～199 万円	200～299 万円	300～399 万円	400万円 以上	不 明	平均所得 金 額
4,056 100.0%	475 11.7%	1,660 40.9%	961 23.7%	149 3.7%	25 0.6%	786 19.4%	174.5 万円

注) 構成割合及び「平均所得金額」は総数から不明を除いて算出

10 母子生活支援施設に入所している児童の虐待経験の状況

虐待経験の状況については、「虐待を受けたことがある」が全体の41.4%（前回18.5%）であり、男子41.6%（前回20.0%）、女子41.3%（前回16.9%）となっている。

表35 虐待を受けた経験別母子生活支援施設入所児童数

	総 数	あ り	な し	不 明
総数	6,552 100.0%	2,711 41.4%	3,561 54.3%	252 3.8%
男	3,257	41.6%	54.4%	3.7%
女	3,272	41.3%	54.4%	4.0%

注) 総数には、性別不詳を含む。

VI 児童養護施設の年長児童の状況

1 年長児童の就学状況

今回の調査で回答が得られた中学3年生以上の年長児童は、7,265人であった。その内男子は3,757人(51.7%)、女子は3,480人(47.9%)、性別不詳が28人(0.4%)となっている。

また、就学状況別の年長児童数は、中学3年生は2,402人(33.1%)、高校生(通信制を含む)は4,614人(63.5%)である。

それ以外では、専修学校には53人(0.7%)が、公共職業訓練校には26人(0.4%)が通っている。

表36 児童養護施設の年長児童の就学状況

	総数	中3	中学卒	高1	高2	高3	高4	通信制	高校卒	専修学	公職訓	その他	不詳
総数	7,265 100.0%	2,402 33.1%	30 0.4%	1,729 23.8%	1,505 20.7%	1,326 18.3%	32 0.4%	22 0.3%	14 0.2%	53 0.7%	26 0.4%	95 1.3%	31 0.4%
男	3,757 51.7% [100.0]	1,247 [33.2%]	16 [0.4%]	933 [24.8%]	740 [19.7%]	694 [18.5%]	16 [0.4%]	7 [0.2%]	8 [0.2%]	27 [0.7%]	24 [0.6%]	32 [0.9%]	13 [0.3%]
女	3,480 47.9% [100.0]	1,151 [33.1%]	14 [0.4%]	791 [22.7%]	758 [21.8%]	631 [18.1%]	15 [0.4%]	15 [0.4%]	6 [0.2%]	26 [0.7%]	2 [0.1%]	63 [1.8%]	8 [0.2%]

注) 総数には性別不詳・学年不詳を含む。

総数欄の%つきの数字は、就学状況の構成割合。[]内の数字は、就学状況別構成割合。

2 児童の生活行動経験

思いやりの行動や社会的自立に関わる行動について質問(質問項目については参考を参照)した中で最も多く経験しているのは「自分の気に入った洋服や持ち物を選んで買ったこと」の93.0%でほとんどの児童が経験しており、逆に最も少ないのは「自分や友人たちと計画して、旅行したこと」の21.5%の児童しか経験がない。

男女間で差の大きな項目は、「赤ちゃんをあやしたり、おむつの世話をしたこと」で女子の経験が23.9ポイント大きくなっている。就学状況別で差の大きい項目は、「一人で銀行や役所(区役所・市役所・町役場等)などで、手続きをしたこと」、「アルバイトやパートタイムの仕事をしたこと」で中3から高校高学年に進むに従って経験の割合が高くなっている。

「いじめ」に関しては、「大勢で1人をいじめてしまったこと」25.0%、「いじめを受けていたこと」38.6%であり、いじめた側は男子の比率が高く、いじめられる側は女子の比率が高い。

また、「虐待」に関しては、「虐待を受けたこと」が全体の27.4%であり、女子の経験が10.5ポイント男子より大きい結果となっている。

表37 児童養護施設の年長児童の経験状況

	実数	7. ネコの世話	8. 人を助ける	9. やりとあげる	エ. 旅行	オ. 赤ちゃん	カ. ボランティア	キ. 手続き	ク. 買う	ケ. アルバイト	コ. 大勢でいじめた	サ. いじめを受けていた	シ. 虐待を受けた
総数	7,265	63.3%	73.1%	76.3%	21.5%	45.3%	68.4%	28.3%	93.0%	37.6%	25.0%	38.6%	27.4%
男	3,757	60.6%	69.8%	76.3%	22.4%	33.8%	67.7%	29.6%	90.9%	36.2%	25.9%	32.8%	22.3%
女	3,480	66.3%	76.8%	76.6%	20.5%	57.7%	69.2%	26.8%	95.3%	39.2%	23.9%	44.9%	32.8%
中3	2,402	65.0%	71.9%	75.7%	22.4%	46.3%	67.5%	14.1%	92.0%	4.8%	25.1%	37.0%	27.6%
高1	1,729	62.6%	72.2%	75.7%	18.5%	41.8%	68.4%	27.1%	92.1%	36.4%	27.0%	37.4%	27.1%
高2	1,505	62.7%	72.8%	75.9%	21.7%	47.9%	69.2%	36.5%	93.9%	55.5%	24.5%	41.2%	28.6%
高3・4	1,358	62.6%	77.2%	80.1%	23.2%	45.3%	70.8%	44.0%	95.2%	73.6%	21.9%	38.3%	25.3%
専・職	79	59.5%	68.4%	69.6%	24.1%	43.0%	65.8%	44.3%	93.7%	51.9%	22.8%	48.1%	27.8%
その他	161	61.5%	71.4%	72.0%	21.1%	45.3%	58.4%	36.0%	93.2%	64.6%	34.8%	50.3%	33.5%

注) 総数には性別不詳・学年不詳を含む。

(参考) 表37の全質問項目一覧

- 「ア. 犬、ネコなどや家畜などの世話をしたこと」
- 「イ. 困っている人を助けてあげたこと」
- 「ウ. 自分で決めた事(スポーツや勉強など)をやりとげ、よくやったなとうれしく思うこと」
- 「エ. 自分や友人たちと計画して、旅行したこと」
- 「オ. 赤ちゃんをあやしたり、おむつの世話をしたこと」
- 「カ. ボランティアをしたこと」
- 「キ. 一人で銀行や役所(区役所・市役所・町役場等)などで、手続きをしたこと」
- 「ク. 自分の気に入った洋服や持ち物を選んで買ったこと」
- 「ケ. アルバイトやパートタイムの仕事をしたこと」
- 「コ. 大勢で1人をいじめてしまったこと」
- 「サ. いじめを受けていたこと」
- 「シ. 虐待を受けたこと」

3 大切なこと

大切なことと思うものについて、10項目(質問項目については参考を参照)の中から、3つを選び回答してもらった。単語自体には多義的なものも多いが、特に限定せず児童の判断に任せた。

最も選択率が高かったものは、「5. 健康であること」の53.2%(前回51.2%)で、次いで「4. 友達がたくさんいること」の52.6%(前回54.1%)、「7. 将来に夢を持っていること」の41.8%(前回49.1%)となっている。

逆に、最も選択率の低かったものは、「8. 人のいやがる事をすすんでやること」の6.8%(前回8.2%)で、次いで「1. 勉強ができること」11.6%(前回10.1%)、「7. 勇気をもっていること」の18.8%(28.5%)となっている。男女ともに「8. 人のいやがる事をすすんでやること」が最も選択されず、次いで「1. 勉強ができること」、「7. 勇気をもっていること」の順は男女とも同じである。

男女間で差の大きい項目は、「6. 運動や歌などで、何か得意なもの(特技)があること」男子が女子より9.6ポイント高いのに対し、「2. 家族で仲良く生活すること」では女子が8.2ポイント、「9. 勇気を持っていること」では女子が4.9ポイント、男子より大きくなっている。

就学状況別で差の大きい項目は、中3から高校高学年に進むにつれ、「5. 健康であること」及び「10. 安定した仕事をする事」は割合が高くなっている。

表38 児童養護施設の年長児童の大切なこと(3つ選択)

	実数	1. 勉強	2. 家族	3. お金	4. 友達	5. 健康	6. 特技	7. 夢	8. すすんでやる	9. 勇気	10. 仕事
総数	7,265	11.6%	39.9%	20.9%	52.6%	53.2%	27.2%	41.8%	6.8%	18.8%	21.7%
男	3,757	12.4%	36.0%	20.7%	53.3%	52.6%	31.8%	42.8%	6.3%	16.5%	22.1%
女	3,480	10.7%	44.2%	21.2%	51.8%	54.1%	22.2%	40.9%	7.2%	21.4%	21.4%
中3	2,402	15.0%	45.3%	18.7%	53.2%	51.7%	28.0%	40.7%	6.0%	20.6%	15.6%
高1	1,729	11.6%	38.1%	21.2%	55.9%	52.1%	27.5%	42.4%	5.7%	18.4%	21.3%
高2	1,505	10.8%	38.3%	23.0%	50.3%	53.4%	28.2%	42.3%	7.4%	16.6%	25.3%
高3・4	1,358	6.5%	35.3%	21.0%	51.4%	58.0%	24.9%	43.2%	8.8%	19.4%	26.6%
専・職	79	11.4%	38.0%	13.9%	46.8%	65.8%	20.3%	39.2%	7.6%	16.5%	38.0%
その他	161	11.2%	36.6%	34.8%	45.3%	44.7%	24.8%	38.5%	7.5%	16.8%	34.8%

注) 総数には性別不詳・学年不詳を含む。

(参考) 表38の全質問項目一覧

- 「1. 勉強ができること」
- 「2. 家族で仲良く生活すること」
- 「3. お金がたくさんあること」
- 「4. 友達がたくさんいること」
- 「5. 健康であること」
- 「6. 運動や歌などで、何か得意なもの(特技)があること」
- 「7. 将来に夢を持っていること」
- 「8. 人のいやがる事をすすんでやること」
- 「9. 勇気を持っていること」
- 「10. 安定した仕事をする事」

4 高等学校(各種学校)進学希望

児童養護施設入所児童のうち、中学3年生の高等学校又は各種学校への進学希望は、表39のとおりである。

調査の時点で進学を希望する児童の割合は84.5% (前回88.0%) であり、まだ考えていない児童は8.3% (前回4.4%)、進学を希望していない児童は5.8% (前回6.6%) となっている。進学を希望する児童において、男子に比べて女子が1.9ポイント大きい結果となっている。

表39 児童養護施設の年長児童の高等学校(各種学校)進学希望

	実数	希望する	考えていない	希望しない
中学3年生	2,402	84.5%	8.3%	5.8%
男	1,247	83.6%	8.8%	6.2%
女	1,151	85.5%	7.7%	5.5%

注) 総数には性別不詳を含む。

5 大学(短大)進学希望

中学3年生以上の年長児童全員の大学又は短期大学への進学希望は、表40のとおりである。

調査の時点で大学(短大)進学希望者の割合は25.7% (前回21.4%)、考えていない28.1% (前回26.0%)、希望しない40.7% (前回46.5%) となっており、前回調査より進学希望が増加している。性別では、高等学校(各種学校)同様、女子の方が男子に比べ進学の希望が高い。

表40 児童養護施設の年長児童の大学(短大)進学希望

	実数	希望する	考えていない	希望しない
総数	7,265	25.7%	28.1%	40.7%
男	3,757	22.1%	29.5%	42.6%
女	3,480	29.5%	26.6%	38.9%
中3	2,402	26.5%	36.7%	33.5%
高1	1,729	26.8%	28.1%	39.8%
高2	1,505	26.2%	21.2%	46.4%
高3・4	1,358	23.6%	20.7%	47.3%
専・職	79	16.5%	26.6%	49.4%
その他	161	19.3%	29.2%	44.1%

注) 総数には性別不詳・学年不詳を含む。

6 将来の希望 (1) -職業-

将来やりたい職業について、「会社や役所に勤める」、「工場に勤める」、「商店・デパート等に勤める」、「農業・漁業・林業・酪農など」、「学校の先生や保育士・看護師など」、「自動車・電車などの運転手及び船乗り・パイロットなど」、「美容師・理容師」、「スポーツ・芸能・芸術」、「警察・消防・自衛官」、「大工・建設業」、「新聞記者・アナウンサー」、「医者・弁護士」などの項目の中から1つを選択した結果が、次の表41である。

男子では、「スポーツ・芸能・芸術」12.1%（前回 11.7%）、「工場に勤める」11.8%（前回 8.2%）、「飲食業・調理等」8.0%（前回 7.5%）が上位を占めている。

女子では、「学校の先生や保育士・看護師など」20.9%（前回 21.6%）、「飲食業・調理等」9.3%（前回 7.3%）「スポーツ・芸能・芸術」8.4%（前回 7.2%）が上位を占めている。

表41 児童養護施設の年長児童の将来の希望（職業）

	実数	会社や役所に勤める	工場に勤める	商店・デパートに勤める	農業・漁業・林業・酪農等	先生・保育士・看護師等	運転手・船乗り・パイロット等	美容師・理容師	飲食業・調理等	スポーツ・芸能・芸術	警察・消防・自衛官	大工・建設業	新聞記者・アナウンサー	医者・弁護士	その他	未決
総数	7,265	4.9%	7.1%	4.0%	1.7%	12.6%	2.3%	4.4%	8.6%	10.3%	1.9%	4.1%	0.2%	0.9%	14.7%	20.0%
中3	2,402	4.2%	4.4%	3.5%	2.4%	11.9%	2.6%	4.7%	8.7%	13.2%	1.5%	4.7%	0.2%	1.0%	14.8%	20.4%
高1	1,729	4.7%	5.7%	4.1%	1.3%	13.0%	2.4%	3.6%	8.9%	10.1%	1.8%	4.1%	0.4%	1.1%	12.8%	24.1%
高2	1,505	5.3%	7.6%	5.4%	1.3%	13.0%	1.5%	4.7%	7.6%	8.5%	2.3%	3.3%	0.2%	0.6%	14.0%	21.9%
高3・4	1,358	6.0%	13.0%	3.8%	1.3%	13.2%	2.5%	4.8%	9.4%	8.5%	2.6%	2.9%	0.2%	0.8%	16.7%	11.8%
専・職	79	5.1%	12.7%	3.8%	1.3%	11.4%	3.8%	2.5%	7.6%	1.3%	2.5%	16.5%	1.3%	-	16.5%	11.4%
その他	161	1.2%	3.7%	0.6%	3.7%	11.2%	1.9%	4.3%	7.5%	8.1%	1.2%	6.8%	-	-	21.1%	26.7%
男	3,757	5.7%	11.8%	2.6%	2.4%	4.8%	4.1%	2.2%	8.0%	12.1%	3.2%	7.5%	0.2%	0.8%	11.0%	21.2%
中3	1,247	5.3%	7.8%	2.6%	3.5%	3.6%	4.8%	1.8%	8.2%	16.8%	2.4%	8.6%	0.2%	1.1%	10.5%	20.9%
高1	933	5.6%	10.1%	2.4%	1.8%	4.3%	4.4%	1.7%	8.5%	10.7%	2.6%	7.3%	0.3%	1.0%	10.3%	26.7%
高2	740	5.4%	12.8%	3.9%	1.5%	6.2%	2.6%	2.4%	6.6%	8.8%	4.3%	6.1%	0.1%	0.7%	11.5%	24.5%
高3・4	710	7.5%	20.3%	1.7%	2.1%	5.6%	4.5%	3.1%	8.6%	10.1%	4.5%	5.5%	0.3%	0.4%	11.1%	12.1%
専・職	51	3.9%	17.6%	-	-	5.9%	3.9%	3.9%	7.8%	2.0%	3.9%	23.5%	2.0%	-	15.7%	9.8%
その他	63	1.6%	4.8%	1.6%	6.3%	7.9%	1.6%	3.2%	7.9%	6.3%	-	15.9%	-	-	20.6%	19.0%
女	3,480	3.9%	2.0%	5.5%	0.9%	20.9%	0.3%	6.8%	9.3%	8.4%	0.6%	0.5%	0.3%	0.9%	18.8%	18.8%
中3	1,151	3.1%	0.8%	4.3%	1.1%	20.7%	0.3%	7.9%	9.3%	9.2%	0.5%	0.4%	0.2%	1.0%	19.5%	19.9%
高1	791	3.8%	0.6%	6.2%	0.5%	23.0%	0.1%	5.8%	9.5%	9.1%	0.9%	0.4%	0.5%	1.3%	15.8%	21.2%
高2	758	5.0%	2.6%	6.7%	1.1%	19.7%	0.4%	6.9%	8.6%	8.3%	0.4%	0.7%	0.3%	0.5%	16.6%	19.5%
高3・4	646	4.2%	5.1%	6.0%	0.5%	21.5%	0.3%	6.5%	10.4%	6.7%	0.5%	0.2%	0.2%	1.2%	22.9%	11.5%
専・職	28	7.1%	3.6%	10.7%	3.6%	21.4%	3.6%	-	7.1%	-	-	3.6%	-	-	17.9%	14.3%
その他	98	1.0%	3.1%	-	2.0%	13.3%	2.0%	5.1%	7.1%	9.2%	2.0%	1.0%	-	-	21.4%	31.6%

注) 総数には性別不詳・学年不詳を含む。

7 将来の希望 (2) 一家庭復帰、結婚、自立一

もとの家庭への復帰希望、結婚への願望、施設から出て自活する自信の有無について聞いた結果が表 42 である。

早くもとの家庭へ復帰したい児童は、全体で 37.7% (前回 38.4%) であるが、14 歳では 45.2%、15 歳では 45.8% が希望しており、その後は年齢が高くなるとともに減少している。

早く結婚して落ち着いた家庭を作りたいと答えた児童は、42.0% (前回 37.9%) であり、年齢が高くなるとともに増加している。

施設を出て、自分で生活することに自信があると答えた児童は、31.3% (前回 31.5%) となっており、特に性別による差が大きく、男子が 36.7% (前回 37.7%) に対して、女子は 25.6% (前回 25.0%) となっている。

「家庭復帰希望」「自立生活への自信」の項目に関しては、平成 4 年の調査以来減少の傾向を示している。

(「家庭復帰希望」：47.0%→41.9%→38.4%→37.7%)

(「自立生活への自信」：36.6%→33.5%→31.5%→31.3%)

※ [H4.12 調査 → H10.2 調査 → H15.2 調査 → H20.2 調査]

表 4 2 児童養護施設の年長児童の将来の希望 (家庭復帰、結婚、自立)

	実数	家庭復帰	結婚したい	生活していく自信
総数	7,265	37.7%	42.0%	31.3%
男	3,757	36.5%	41.3%	36.7%
女	3,480	39.2%	42.7%	25.6%
14歳	199	45.2%	34.7%	28.6%
15歳	2,289	45.8%	38.8%	32.4%
16歳	1,731	37.1%	40.4%	29.6%
17歳	1,544	32.9%	44.3%	31.5%
18歳以上	1,254	28.2%	48.7%	31.3%

注) 総数には性別不詳、年齢不詳を含む。

8 友人関係

友人関係であるが、「親身になってくれるともだちがいますか」という質問に対して、「いる」という回答をした年長児童は 63.1% (前回 57.9%)、「いない」は 7.3% (前回 7.3%)、「わからない」は 27.5% (前回 27.4%) であった。

表 4 3 児童養護施設の年長児童の友人関係

	実数	いる	いない	わからない	不詳
総数	7,265	63.1%	7.3%	27.5%	2.1%
男	3,757	58.3%	8.5%	30.8%	2.3%
女	3,480	68.4%	5.9%	24.0%	1.7%
14歳	199	52.3%	7.5%	37.7%	2.5%
15歳	2,289	61.6%	7.1%	29.4%	1.9%
16歳	1,731	60.4%	7.5%	29.8%	2.3%
17歳	1,544	66.5%	7.4%	24.5%	1.6%
18歳以上	1,254	67.8%	7.4%	23.1%	1.7%

注) 総数には性別不詳、年齢不詳を含む。

Ⅶ 児童自立支援施設の年長児童の状況

1 年長児童の就学状況

今回の調査に回答を寄せてきた年長児童数は、1,019人であった。その内男子は629人(61.7%)、女子は387人(38.0%)、性別不詳が3人(0.3%)となっている。

また、児童自立支援施設入所児童の就学状況別の年長児童数は、表44のとおりである。

表44 児童自立支援施設の年長児童の就学状況

	総数	中3	中学卒	高1	高2	高3	高4	通信制	高校卒	専修学	公職訓	その他	不詳
総数	1,019 100.0%	739 72.5%	146 14.3%	51 5.0%	31 3.0%	20 2.0%	-	8 0.8%	2 0.2%	1 0.1%	6 0.6%	13 1.3%	2 0.2%
男	629 61.7% [100.0]	468 [74.4%]	73 [11.6%]	37 [5.9%]	19 [3.0%]	13 [2.1%]	-	4 [0.6%]	-	-	5 [0.8%]	9 [1.4%]	1 [0.2%]
女	387 38.0% [100.0]	270 [69.8%]	72 [18.6%]	14 [3.6%]	12 [3.1%]	7 [1.8%]	-	4 [1.0%]	2 [0.5%]	1 [0.3%]	1 [0.3%]	4 [1.0%]	-

注) 総数には、性別不詳を含む。

総数欄の%つきの数字は、就学状況の構成割合。[]内の数字は、就学状況別構成割合。

2 児童の生活行動経験

思いやりの行動や社会的自立に関わる行動として、児童養護施設と同様の項目で、それぞれについての経験の有無を聞いた。(質問項目については、参考を参照)

全項目中で最も多く経験しているのは「ク. 自分の気に入った洋服や持ち物を選んで買ったこと」の92.0%で、ほとんどの児童が経験しており、逆に少ないのは「キ. 一人で銀行や役所(区役所・市役所・町役場等)などで、手続きをしたこと」で21.3%の児童しか経験がない。

男女間で差の大きな項目は、「オ. 赤ちゃんをあやしたり、おむつの世話をしたこと」であり、女子が男子に比べて25.5ポイント大きくなっている。

「いじめ」に関しては、「コ. 大勢で1人をいじめてしまったこと」が44.6%(前回49.6%)、「サ. いじめを受けていたこと」が43.2%(前回40.1%)であり、いずれの項目についても、女子の比率が高いという結果になっている。

また、「虐待」に関しては、「シ. 虐待を受けたこと」が全体の31.2%(前回27.7%)であり、女子が男子より16.6ポイント高い結果となっている。

表45 児童自立支援施設の年長児童の経験状況

	実数	ア. ネットの世話	イ. 人を助ける	ウ. やりとあげる	エ. 旅行	オ. 赤ちゃん	カ. ボランティア	キ. 手続き	ク. 買う	ケ. アルバイト	コ. 大勢でいじめた	サ. いじめを受けていた	シ. 虐待を受けた
総数	1,019	79.0%	74.1%	78.0%	31.8%	56.6%	61.6%	21.3%	92.0%	27.8%	44.6%	43.2%	31.2%
男	629	78.2%	72.0%	80.3%	28.5%	46.9%	60.6%	17.2%	90.9%	22.6%	40.1%	35.3%	25.0%
女	387	80.6%	77.5%	74.4%	37.5%	72.4%	63.6%	27.9%	93.8%	36.2%	51.9%	56.1%	41.6%
中3	739	80.8%	72.0%	77.9%	34.2%	55.6%	59.1%	17.2%	93.5%	21.1%	47.4%	39.9%	26.1%
中学卒業	146	76.7%	81.5%	76.7%	28.1%	59.6%	67.8%	24.0%	87.0%	43.8%	41.1%	56.2%	38.4%
高校生等	132	72.7%	78.0%	81.1%	22.7%	59.8%	69.7%	40.9%	90.2%	47.0%	33.3%	47.0%	52.3%

注) 総数には、性別不詳・学年不詳を含む。

(参考) 表45の全質問項目一覧表

- 「ア. 犬、ネコなどや家畜などの世話をしたこと」
- 「イ. 困っている人を助けてあげたこと」
- 「ウ. 自分で決めた事(スポーツや勉強など)をやりとげ、よくやったなとうれしく思うこと」
- 「エ. 自分や友人たちと計画して、旅行したこと」
- 「オ. 赤ちゃんをあやしたり、おむつの世話をしたこと」
- 「カ. ボランティアをしたこと」
- 「キ. 一人で銀行や役所(区役所・市役所・町役場等)などで、手続きをしたこと」
- 「ク. 自分の気に入った洋服や持ち物を選んで買ったこと」
- 「ケ. アルバイトやパートタイムの仕事をしたこと」
- 「コ. 大勢で1人をいじめてしまったこと」
- 「サ. いじめを受けていたこと」
- 「シ. 虐待を受けたこと」

3 大切なこと

児童養護施設と同様に、大切なことと思うものについて回答してもらった(質問項目については参考を参照)。

最も選択率の高かったものは、「2. 家族で仲良く生活すること」の60.3%(前回60.3%)で、次いで「4. 友達がたくさんいること」の50.9%(前回49.3%)、「5. 健康であること」の45.1%(前回44.6%)となっている。

逆に、最も選択率の低かったものは、「1. 勉強ができること」の7.3%(前回6.8%)で、次いで「8. 人のいやがる事をすすんでやること」の9.2%(前回9.5%)、「3. お金がたくさんあること」の20.3%(前回22.6%)となっている。

男女間で差の大きい項目は、「4. 友達がたくさんいること」で男子が女子より8.5ポイント高いのに対し、「3. お金がたくさんあること」では女子が10.7ポイント、「9. 勇気を持っていること」では女子が9.1ポイント男子より高くなっている。

表46 児童自立支援施設の年長児童の大切なこと(3つ選択)

	実数	1. 勉強	2. 家族	3. お金	4. 友達	5. 健康	6. 特技	7. 夢	8. すすんでやる	9. 勇気	10. 仕事
総数	1,019	7.3%	60.3%	20.3%	50.9%	45.1%	20.9%	37.9%	9.2%	21.3%	22.4%
男	629	7.6%	61.2%	16.2%	54.2%	44.8%	22.9%	37.5%	9.2%	17.8%	23.8%
女	387	6.7%	58.9%	26.9%	45.7%	45.7%	17.8%	38.8%	9.3%	26.9%	19.9%
中3	739	8.3%	61.8%	20.0%	52.1%	44.8%	21.2%	37.6%	8.3%	20.7%	21.1%
中学卒業	146	4.1%	62.3%	17.8%	41.8%	43.2%	19.9%	41.1%	15.1%	23.3%	28.8%
高校生等	132	5.3%	50.0%	25.0%	55.3%	50.0%	20.5%	36.4%	8.3%	22.0%	22.7%

注) 総数には、性別不詳・学年不詳を含む。